

## 助成活動実績報告書

企画名	第13回あいかわエコメッセ
団体名	あかいわエコメッセ

### ①活動の目的について

今年、3.11 福島原発の震災を受けて例年と違う企画で開催いたしました。エコメッセの原点である、1990 年に取り組まれた高レベル放射性廃棄物の持ち込み、処分に反対する直接請求県民運動で 64 万筆の署名を集め、県知事へ「県民に不安を与えるような廃棄物の持ち込みはさせない」と公式発言が、現在まで堅持されています。個人的には、1986 年のチェルノブイリ事故以降 20～25 年間原発の危険性を暴露し、反対運動をしてきた立場から、今回の福島原発のメルトダウンによる地球規模の放射能汚染の拡散に無力感と敗北感に打ちのめされています。その思いを今回の「特別企画」の込めました。

### ②内容について

#### ・通常のエコメッセの企画としての準備

立体折り紙のワークショップー講師依頼、もちっこポテト、ソーラー発電カキ氷、生ゴミリサイクルの啓発ーボカシを作り配布、地産地消ー各種果物、野菜、苗 etc.、中学生の夏休みボランティア 6 人の手配、ケア

#### ・特別企画としての準備

チケット販売、教育委員会を通じ各校長への依頼状

1 日目の講師 (認定 N P O 法人おかやまエネルギーの未来を考える会) 広本悦子さん  
(福島県川内村から避難してきた) 大塚尚幹さん、愛さん

2 日目の講師 藤田祐幸さん

広河隆一さんの「25 年目のチェルノブイリ」「3.11 からの天災と人災」写真パネル展

### ③この活動によって達成された成果

- ・従来の参加者と新しい参加者（特別企画）があった。
- ・3.11 以降 4 ヶ月目という今だ情報が混沌としている状況の中、藤田祐幸さん、川内村の大塚さんのお話は時期にかなった正しい情報提供ができたと思います。参加者の声に、「よく企画してくれた」「真実がわかった」「マスコミ情報の大本営発表のウソが明かされた」等。
- ・広河さんの写真パネル展は、より福島の実態を厳しく指弾した。「25 年目のチェルノブイリと、福島震災の被害がオーバーラップして胸がしめつけられる」「タイムリーな（25 年目と 4 ヶ月目）パネル展！！」
- ・通常の企画も夏ボラの中学生を含め、新たな講師たちも協力していただいて、楽しんでもらえた。
- ・教育委員会を通じ、福島の方たちの切実なメッセージをそえて、参加の依頼状を出した。教育委員長以下 3 人の職員が初めて参加してくれた。

### ④今後の計画・展望について

- ・現在、「さよなら原発 10000 万人署名」に取り組んでいます。
- ・食品の放射性検知器の購入運動にも取り組んで、市民レベルでの検査活動にも取り組む。
- ・生ゴミリサイクル出前講座を市の広報誌を通じて取り組んでいます。